

○事業所名	阿久比町児童発達支援支援事業所てくてく			
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日		～ 令和7年2月21日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	令和6年12月10日		～ 令和6年12月13日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子で通い、親子で一緒に活動を行う療育(親子療育)を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの支援場면을共有し、保護者が子どもの特性や特性を踏まえた子どもへの関わり等を自然と学ぶ機会を提供する。 保護者自身が考えて子どもと関わる機会を提供し、その時の子どもの姿や気持ち、保護者の心情を丁寧にふりかえり、子どもの特性理解につなげている。 保護者同士が仲間づくりが行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度親子療育を積み重ねた家庭が単独療育を行い、子どもの成長発達をより促す。 単独療育になると保護者同士が話す機会が減ることが予想される。保護者同士がつながれる取り組みを検討する。
2	保健センターや健診事後フォロー教室、公立保育園・幼稚園との関わりが深い。	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関と定期的に会議を実施し、活動内容や移行予定の子の状況についての共有を行っている。 事後フォロー教室からの入所、当事業所からの園への移行の際、担当者が実際の子どもの姿を確認した後、子どもの見立てや支援方法について共有をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 町全体で、発達支援が必要な子どもに対して見立てを多職種で行う。子どもにとって適切な支援の場の選定や案内方法を話し合う。
3	多職種の専門家(公認心理師、作業療法士、言語聴覚士、精神福祉士等)が定期的に療育に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 各専門家に見立てをしてもらい、広い視野で子どもに対する支援内容や支援方法を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団療育をしている場面の観察を実施し、各専門家の見立てが深まりやすいようにする。 その子にとって適切な支援の場の提供に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・単独療育日が少ない。	・親子療育期間が著しく長い。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より単独療育日時を試験的にのばした。保護者と子どもの姿を振り返りながら、単独療育日時を増やしている。来年度より親子療育を経た家庭は子どもの姿に合わせて単独療育を実施する。
2			
3			